

## 第4回 吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議 議事要旨

### 1 開催日時

平成27年(2015年)1月7日(水) 午後1時30分～午後3時30分

### 2 開催場所

吹田市立保健センター研修室

### 3 構成員出席者

吹田市医師会 四宮会長、川西副会長、吹田市歯科医師会 千原会長  
吹田市薬剤師会 大森会長、摂津市医師会 川西会長、大浦副会長  
摂津市歯科医師会 喜島会長、摂津市薬剤師会 石田副会長  
国立循環器病研究センター 内藤病院長、三石企画戦略局長  
市立吹田市民病院 衣田総長、前田事務局長  
大阪府吹田保健所 谷口所長、大阪府茨木保健所 高山所長  
摂津市 島田保健福祉部理事、堤保健福祉部長、摂津市保健センター 福永事務局長  
吹田市 米丸医療まちづくり監兼吹田操車場跡地まちづくり担当理事、  
安井保健・健康施策担当理事、乾都市整備部担当理事

### 4 構成員欠席者

なし

### 5 案件

- (1) 吹田操車場跡地を中心とした地域医療や健康・医療のまちづくりの課題や展望について
- (2) 吹田市における健康・医療のまちづくりについて
- (3) これまでの議論の整理
- (4) その他

### 6 議事の概要 別紙のとおり

事務局 第4回「吹田操車場跡地を中心とした健康・医療のまちづくり会議」を開催します。

本日の出欠につきまして、全員お揃いでございます。今回からは、摂津市薬剤師会から石田副会長にメンバーとしてお越しいただいております。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入らせていただきます。これまで第2回、第3回では、皆様に吹田操車場跡地を中心とした地域医療や健康・医療のまちづくりについてということで、課題や展望について御説明いただいたところで、今回は吹田市歯科医師会から御説明いただきます。その後、国立循環器病研究センターから追加の資料をいただいておりますので、続けて御説明いただければと思います。資料2と資料3についてまず議論させていただき、その後に吹田市から新たに提出させていただいている資料4-1から資料4-3について、説明させていただきます。それから資料5ですが、こちらは第3回までの会議での議論を整理させていただいておりますので、振り返らせていただいてさらなる課題を深掘りさせていただければと思います。それでは、御説明をお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

A ー資料2「吹田操車場跡地における健康・医療のまちづくりに向けて」にて説明。

事務局 具体的な提案も含めていただき、ありがとうございます。また後で議論をする時間を設けたいと思っておりますので、続けて御説明いただきたいと思っております。よろしくをお願いいたします。

B ー資料3「国立循環器病研究センターからの提出資料」にて、関西大学との包括連携協定の締結について説明。

C ー資料3「国立循環器病研究センターからの提出資料」にて、富士通との包括協定の締結について説明。

事務局 ありがとうございます。ここまでの内容につきまして御質問や御意見等がございましたらお願いできればと思います。

吹田市と関西大学のお話をさせていただきますと、関西大学の関西健康医療まちづくりフューチャーセンター（仮称）を国立循環器病研究センターの移転用地周辺におきまして設置・運営したいということで御相談をされておまして、あの辺りでは、さすがに国立循環器病研究センターの移転用地内にはなりませんのでしょうから、おそらく4街区の駅前複合商業施設の中か正雀下水処理場の企業誘致のエリアの二つが考えられるところになるかと思います。4街区の商業施設は開発事業者との関係でどうなるかはわかりませんが、正雀については地権者が吹

田市と摂津市で持っておりますので協力できるところは協力していきたいと考えております。

今までのお話やその他の御意見・御質問等がございましたらお願いいたします。

— 意見なし —

事務局 続きまして、吹田市より資料 4-1 から資料 4-3 を用いて御報告させていただきます。

—資料 4-1 「緑のふれあい交流創生ゾーン 1 健康増進広場（案）」にて説明。

—資料 4-2 「各種計画に対する実行計画策定について（案）」にて説明。

—資料 4-3 「緑のふれあい交流創生ゾーン 2（鉄道運輸機構所有地）について（案）」にて説明。

これらの資料につきまして、御質問等がございましたらお願いいたします。

D 質問というより要望ですが、こちらでウォーキングの回遊性をもったようなものを整備するということでしたが、万博の外周はよくできていると思います。ウォーキングだけでなく、ジョギングとか、自転車でまわられる方、そのほかこの医療機関に入院されている方はなかなか外に出られないと思いますが、例えばリハビリを兼ねて車イスで回遊できるとか、電動カートまで配慮して整備していただければと思います。もう一つ、かまどベンチで防災対策をというようなところもあります。例えば、患者の御家族が来られた時にリハビリを兼ねてバーベキューができ、商業ゾーンにスーパーをいれて地場の食材などをそこで提供していただければ家族で楽しむこともできるので、そういったことも検討していただければと思います。

事務局 車イスや電動カートについては、まさにおっしゃるとおりだと思いますので、できるだけ歩道を広くとって、朝の通勤の時間帯などは自転車が多いような場所もあるので、いただいた御指摘を念頭におきながら考えていきたいと思っています。バーベキューができるかどうかは、南北に細長いところなので風がどう吹くかなど地域との兼ね合いもありますから検討は必要になりますが、何らかのリフレッシュできるような空間づくりは必要かと思っておりますのでそういった使い方についてもまた考えていきたいと思っています。

E 今、計画についてお話がありましたが、実行計画の中で医療や保健の話はされていますが、集客を目指すのであれば道路の整備が非常に大事になるかと思えます。そのへんは市の中で一緒に並行して話し合われているのでしょうか。これは出来上がったけどアクセスが悪いから人は集まってこないというようなことがあると、一緒につくった意味も薄れてくるかと思っておりますのでいかがでしょうか。

事務局

吹田操車場跡地という地区につきましては区画整理事業を進めているところです。吹田操車場跡地の地区内の道路整備は平成 27 年度まで区画整理があるので来年度中には完成する予定です。例えば、救急医療ということで考えますと、救急車両の動線を考えることも課題かと考えています。一方通行の道や道幅が狭いところもあるので、国立循環器病研究センターが移転を検討する中で課題として挙げられていて、私どもとしましても駅前を南北に通っている豊中岸部線の拡幅工事や正雀川沿いの北の岸部中千里丘線という道路も整備をさせていただいて、例えば、千里ニュータウンからも時間が短く、混雑せずに国立循環器病研究センターに救急車両が入っていけるようにと考えております。救急車両が高速道路から来た場合にどこで降りるかについても、今の状態では遠い所にしかインターチェンジがないので、スマートインターのような形にして、近くで緊急車両が簡単に降りられるような仕掛けをすることも移転の際には提案させていただいて現在準備を進めているところです。用地買収も含めてどういうふうなスケジュールが進んでいくか、国立循環器病研究センターが開院するまでには道路環境を含めて出来上がっているようにしていきたいと思っています。

B

資料 4-2 の実行計画策定について、そもそも平成 19 年に全体構想ということで吹田市長、摂津市長などが入られた形で始まっています。本年にまとめる吹田操車場跡地まちづくり実行計画では、吹田市だけの名前になっておりますが、摂津市は絡んでこないのでしょうか。

F

構想は吹田市と一緒に作りましたが、基本計画につきましては摂津市では吹田操車場跡地まちづくり基本計画を作成しております。実行計画となるものですが、摂津市で言いますと街区が持っている機能は住宅エリアのみとなりますので、そういう意味で吹田操車場跡地まちづくり全体構想にぶらさがった形の実行計画は作りにくいかと思っています。保健・医療の分野では、今まで健康せつつなどの既存の計画があり、それに基づいています。平成 25 年 6 月に国立循環器病研究センターの移転が決まったということもありますので、国立循環器病研究センターとの連携などを含めたうえでの計画というものは何らか作っていく必要があるかと思います。それにつきましては、摂津市内の審議会に新たに部会を作り議論を進めていきたいと思っています。吹田市とは少しニュアンスが異なり、まちづくり計画の中の計画ではないですが、同じような計画は来年度中には作成していきたいと思っています。

B

たてつけは自治体によって違いますが、吹田市はまちづくり実行計画、摂津市はまた別の計画か何かを作られると思いますが、せっかく両市、医師会、歯科医師会、薬剤師会が入っている場ですので、まとめる際には一体感が出るような工夫をお願いできればと思います。この資料では吹田市だけの計画なので、これが両市にまたがる計画のように受け取られないように工夫いただければと思います。

事務局

この資料は 11 月中旬に行われた吹田市議会の吹田操車場等跡利用対策特別委員会に提出したものをそのまま出させていただいたので、摂津市との兼ね合いというところにまで気をつかっておらず大変申し訳ありませんでした。おっしゃるように、自治体が違っても一体感を持ったまちづくりを行っていくというのはこれまでの議論でも何度か出てきておりますので、そのあたりは十分認識しております。こういった計画を策定しようと思っていることについても事前に摂津市に御相談させていただきながら進めていますし、これからもしっかりと連携をとっていきたいと考えております。

続きまして、議題の 3 として、これまでの議論の整理ということで、これまでの第 1 回から第 3 回までに御議論いただきました内容を項目ごとに事務局で整理させていただきました。まず私どもで説明させていただいた後、御議論いただき、論点や課題を掘り下げてくださいと思います。この資料は 1 地域医療のあり方、2 健康・医療のまちづくりについて、主に今回は 1 と 2 について議論させていただきたいと思います。

－資料 5「これまでの議論の整理」にて、1 地域医療の課題について説明。

皆様からいただいた御意見は非常に多くありましたので、すべて御紹介できず恐縮ではございますが、これまでのおさらいということで今までの議論を振り返りつつ、皆様で共有できたところはピックアップして到達点という形で書かせていただいております。これまでの説明等につきまして、御質問や課題をさらに深掘りしていただければと思いますが、いかがでしょうか。

D

今までの話をきちんとまとめていただいてありがとうございます。私がほかのプロジェクトなどでもしてきた経験上、かなり意見が出てきたところで、今後次のステップに入っていくとイケないだろうと私なりに考えており、三つのポイントがあります。こういう会を進めていくうえでは、今後実務の協議をかなりしていけないと意見が散乱するだけになると思うので、リーダー役をまず明確に決めていくこと、もう一度シンプルでわかりやすいコンセプトをきっちり掲げることが必要だと思います。また、この会は三師会を含めて地場産業の地域貢献、地域連携を具体的にどういうふうにしていくかということはまだあまり議論されていないように思います。駅前の商業施設についてはいくつかのゼネコンが手を挙げたという話も聞いておりますが、大手のゼネコンとか、例えば場合によっては薬局に関しても薬剤師会にも加入していないような大手のチェーンドラッグが入ってすべての患者を独占してしまうということでは地域の薬剤師会にもメリットはなく、歯科や医科に関しても地域連携をとらないような医療モールになってしまっただけでは何のために作ったのかわからなくなってしまいます。ですからそのような各論を議論していくうえでも、私の個人的な考えですが、リーダーとコンセプトが必要と考えます。リーダーには国立循環器病研究センター、サブリーダーには吹田市民病院にお願いし、実務事務局と検討会などを作って進めていった方が

良いのではないかと考えます。

事務局 重要な三つの御指摘をいただきありがとうございます。私どもも悩んでいるところで、おっしゃるようにコンセプトを明確にということもさることながら、連携をどうするか、誰が旗振り役になるかは大きな問題かと思えます。何か御意見はありませんか。

B 誰が旗振り役かというのは立場によって答えにくいかと思いますが、第1回では国立循環器病研究センターを核とする医療クラスターの考え方ということで、国立循環器病研究センターから見たこの地域でのまちづくりについて御報告させていただいたところで、それについていろいろと御意見もありました。また、あくまでも案で抽象的にとどまるようなこともありましたので、例えば、今行っている吹田コホート研究をどう発展させるかというような個別の問題について詰めるところもまだたくさんあるかと思えますので、この時点で誰がリーダーかというのは、皆様がリーダーというかそれぞれの立場で貢献していただくということだと思います。一方で、みんなですべて議論していくのが良いのか、もう少し実務家で少人数である程度たたき台を議論していくのが良いのではないかと御提案は一つの議論の進め方かと思えますので、事務局の方で皆様に諮っていただければと思います。

G 資料の中ですでに指摘はされていますが、国立循環器病研究センターと吹田市民病院との連携について、薬剤師会の問題提起に対して吹田市民病院から患者の区別はできないとのお答えがありました。自然発生的に連携が進んで行くと国立循環器病研究センターはナショナルセンターなので市外の患者が多くなるのが予想されるので、あらかじめ議論をしておかないと、あふれ出した時に市民優先ではないかという声もあがるのではないかと思います。こういうところに隣接してこういうスキームのもとで作るのだから、普通の市民病院の要素を超えたこういう部分については最初から考えよう、そのためにはどうしたらいいかと実務的に押さえておいた方がいいと思います。

H 「患者を区別することはできない」という部分につきましては、我々としては、患者を色分けできないので来られた方は当然診ますという考えですが、議会からは、市民病院は税金が投入されているといった観点での御発言もありました。我々は市民病院ですので、来られる患者に対して、今後国立循環器病研究センター、吹田市と協議もしていくことになるかと思えますが、誰をどうするという考え方は現在のところ持っていません。吹田市と他市の方については、診療報酬以外の料金面での区別は可能であるが、それ以外の部分については公平であると考えております。

B 冒頭の御提言にも関連するのですが、今日配られた資料は今まで参加された方の御意見をまとめたということで、さらにこの中身を詰めるためにはコンセプトをはっきりさせ、またリーダーといいますか、それをきちんと詰めるべき主体をはっきりとさせることだと思いますが、一方でそもそも全く議論されていない分野は本当はないのかどうかということも確認しておく必要があると思っております。私の個人的意見では、もちろんここに参加された方々は基本的に医療を提供される側の方々ということで、逆に医療を受ける、あるいは医療を受ける手前の予防とか健康づくりの主体となるいわゆる一般の住民の方々から見た場合の論点についてはあまり議論されていないのではないかという感じを受けています。私はもともと長野県の出身で、長野県はこの分野ではいろいろな意味で取り上げられていますが、長野県の特異性、独自性というのは、地域医療を担うドクターなどだけではなく、地域住民の方々自身がボランティアになったり NPO になったりして、自らの塩分成分を意識したり、隣の家のみそ汁の塩分量を量ってケチをつけるようなことまでして、かつて高かった塩分摂取量を減らす活動をしてきた県民性です。吹田・摂津両市における健康づくりに関する NPO やボランティアは今どうなのか、もしうまく育っていないのであればそういった育成をどう考えるのかというような点を是非御議論いただければと思います。また、それに関連して商工会議所のような事業者の集まりもあります。いろいろな自治体では、例えば、物を買ったとそれをポイント制にして、そのポイントが健診に使えるとか、健康づくりのモノ、サービスに使えるというようなことを事業者が協力して健康づくりに貢献しているような例もありますので、商工会議所などの役割をどのように考えるかという点もあるかと思えます。そういった NPO、ボランティア、商工事業者のあり方、関わりについてもせっかくの機会ですので御議論いただければと思います。

事務局 当初から市民の方や企業の関係者の方からもまちづくりの観点から御意見を伺う必要があると考えています。例えば、市民の方から意見を聞く場合、どの段階でどういった手法がいいのか、この会議に来てもらうのがいいのか、私ども事務局で一定の段階でヒアリングをしてその御意見などを改めてこういった場で御紹介させていただくのがいいのか検討させていただければと思います。吹田市の商工会議所については、非常に早くから熱心に国立循環器病研究センターを核とした健康・医療のまちづくりに関心を持たれていて、昨年7月か8月から健康医療のまちづくり委員会というものを商工会議所の中で立ち上げて、月に1回程度開催されているかと思えます。12月には最終回を開催されており報告書をまとめたものと伺っております。たぶんどこかにお出しになるかと思えますので、そういったものも明らかになれば御紹介させていただくこともあるかと思えます。

B 吹田市と摂津市に今わかればお答えいただき、わからなければ次回で結構ですが、自治体によっていろいろな呼び方があるかと思えますが、そういった健康づ

くりに関する健康づくり推進員とか、一般の健康づくりに関心のある方で地域のリーダー的に運動・食事に取り組んでいただけるような方々は、吹田市、摂津市では今どういう状況になっているのでしょうか。また、私どもはかるしおレシピが特徴なので食事にこだわってしまいますが、食生活改善推進員の方々はどのような活動をされているのか、栄養士の方でも結構ですが、今わかる範囲で結構ですので教えていただければと思います。

- I 摂津市では健康づくりを推進するリーダーを養成しております。健康体操を推進するリーダーグループが一つあります。その方達が摂津市独自の体操を広めていくという形で今健康づくり自主グループが43グループあり、そこに推進リーダーが指導に行くという形で継続をはかっているという状況でございます。また、平成25年度からはウォーキング推進リーダーを養成しまして、その方達が摂津市内のウォーキングコースを設定するとか、ウォーキングのイベントをする時にリーダーとなってウォーキングを指導していくという活動をしております。食の方は食育推進リーダーを養成しまして、その方達が高齢者の自主グループの中に食育の指導をするとか、子ども向けには推進リーダーが食育劇とかエプロンシアターを実施するような形で動いています。また、摂津には在宅栄養士会、看護師会がありますのでそういう専門職の方達が地域に出向いて講話する、血圧測定をするというような形で実施しているところです。

事務局 吹田市の状況ですが、そういった例えば健康推進員、保健推進員のような他の自治体でされているような制度というものは現在ありません。一方で市民の健康教室とか出前講座のような形で健康づくりのための講座をいろいろなところでやっているという実績はございます。認知症サポーターなどはやっていますが、健康とか栄養とか健康づくり全般の支援をするようなことは今はやっていますが、今後については健康・医療のまちづくりということで、行政だけではなく企業や市民と一体になって、市民自ら気運を高めていくためにもそういった動きは必要になると認識しております。今後どういうふうに事業化していくかということもありますが、そういった市民の方が自ら周囲も含めて健康づくりを推進していけるような体制について、支援も含めてどのようにしていくかということを検討していきたいと思っています。

事務局 吹田市の住民による活動につきまして、高齢者の介護予防に特化した活動に限定はされますが、介護予防推進員という位置づけで養成させていただいております。市で実施しております介護予防教室を卒業されて自主グループ化されたグループが30グループほど吹田市内で活動を継続して運動習慣を維持していただいています。そういう自主グループの育成や支援にお手伝いに入っていただくこと、介護予防に資する講演会や様々な事業のPR活動のほか、少しずつ地域の公園で公園体操というものを展開しつつあるので、初めは職員で対応させていただき、そ



の後の支援は推進員にお願いするという形で、介護予防に特化してはいますが、吹田市で育成して活動していただいています。

事務局 健康づくり推進員をシステムとして作っているということはありませんが、保健師活動の中で特定保健指導を御存じのとおり行っていますが、6 か月間の支援をした後に OB 会というような形でグループを作り自主的に活動していただいています。保健センターが実施する健康教室では、先日がんの予防啓発のがんウォークというものを実施しましたが、保健師とともに企画から携わっていただいて、当日も市民の方と一緒に活動していただいたというようなことをしており、今後継続していければと思っております。

事務局 本市で現状行っていることを述べてまいりましたが、運動と栄養全般のための健康推進員のようなものについては今ありませんので、そういったものも視野にいれつつ検討していきたいと思っておりますが、そういった設計をするにあたっては、三師会の皆様や保健所にも御相談をさせていただきたいと思っております。吹田操車場跡地のまちづくりは一つの契機なので、国立循環器病研究センターや吹田市民病院にも是非医学的アプローチから御支援いただく場面もお願いできればと思っておりますので、その折には御相談させていただければと思っております。

J 今健康づくり、まちづくりを中心に話をされていますが、吹田市民病院は吹田市民が受診する場合は 80 数パーセントでほとんど吹田市民が多いと思っております。今後、摂津の方に行きますと遠くなります。来られる患者に対して区別はできない、公平にしないと書いていると書いてありますが、今まで吹田市民病院にかかっている患者で、今後もずっと吹田市民病院に行きたいと言う患者に対してのフォロー、支援など、例えばバスなどは何も考えていないのでしょうか。

H 今より若干離れて摂津市側に行きますので、足の便とかそういったことについては確保すべく、これについては国立循環器病研究センターと協議も進めております。どういう形になるかは別として、シャトルバスの運行など足の便の確保について協議を進めるということで御理解いただければと思っております。

K 厚労省はこれから医療機能分化ということで病院と診療所の機能を分化させるとされていますので、今までのように吹田市民病院、国立循環器病研究センターに行けば、今は誰でも診ないわけにはいかないですが、誰でも診ることがだんだんできなくなっているのをそれを見すえて議論していかなければならないと思っております。そういう関係から考えると、摂津市民は国立循環器病研究センターに、ということではこれからの医療は成り立たないので、病診連携、紹介・逆紹介を含めた連携をしていく必要があります。病院の外来は今でもパンクしているし、制度上できなくなってくるので、そこを見すえて議論していくことが必

要かと思います。

- D 今おっしゃったことと同感ですが、前回もお話しましたが、私はりんくう国際特区に関わっていて、りんくうが特区を取得するうえで、隣にある市立泉佐野病院でも同じような議論がなされました。海外や地方の患者がたくさん来た時に、連携先である市立泉佐野病院が患者をたくさん受け入れると、泉佐野市の患者を診られなくなるのではないかと、そこでの税金等についても市民の血税が外に出ていってしまうのではないかとというようなことが議会で議論されました。結局その時にすることになったのは、医療を支える財源、税収というものは、医療機関とほかの業種、地場産業とか様々なものがコラボレートすることによっていろいろな産業が興り、地域経済が活性化することで医療機関の負担とかそういったものが軽減していく、それで健全化していき、地元の産業が活性化していくようにということでした。もう一つは、本当に今の患者が全部病院に通院しなければならないのかということをもう一度整理して、一次、二次、三次という役割を見た時に本来は開業医が診られる方々を振り分けるという仕組みをしっかりとつくっていけばいいのではないかとということで話が進んでいった経緯があります。それを進めていくうえでポイントになってくるのは、二つの病院の間の複合商業施設に何をいれていくかがかなりキー的な役割になってくるかと思います。先月コンペの締切があったと思いますが、その進捗状況はどうか、下水処理場の跡地に様々なメディカルクラスターをいれていくためのアンケートを集められているということで、下水処理場跡地のメディカルクラスターはどのような状況か、この2点を教えていただければと思います。

- 事務局 1点目の4街区の駅前複合商業施設については、昨年の12月24日、25日の2日間に企画提案書をURに提出するということになっておりますので、何者が提案書を出されたか我々はまだ承知をしておりませんが、いくつかの提案が出ているのではないかと思います。今後につきましては、2月中下旬に業者を決定して、3月には契約、引渡しをするというふうにお聞きしております。次にこの会議を開催する時にはおそらく業者がもう決まっているので、その方にも来ていただいてどういうふうな企画をしていこうとしているか、どういった建築物を建てていくのかということも含めて御説明いただければと考えています。もう1点の正雀下水処理場の跡地の医療クラスターの企業誘致をどのように進めていくかということですが、今お話にありましたように全国3,000社程度の医療関係、医療機器や製薬、その他幅広い健康関連の産業にアンケートを送っています。アンケートはどういったものかといいますと、国立循環器病研究センターというのを知っているかに始まり、こういった移転計画を知っているか、最近の設備投資の状況などの調査、こういったところに投資意欲があるかなどを調査しています。設備投資の意欲があるかという軸とこのプロジェクトに関心があるかという軸をマトリックスに組み立てて、投資意欲もありこのプロジェクトに関心がある人、関心

はあるが投資意欲はないという人、そういった分析ができればと考えています。そのアンケート結果をもって正雀下水処理場跡地の画地割やこういった機能をこういったところにもっていくかというような青写真のようなもの、ランドデザインを描いていければと思います。今年度中に跡地利用の計画を考えたいと思っていますが、それにあたりましては当然国立循環器病研究センターとの共同研究をされる企業が多くなると思いますので国立循環器病研究センター、摂津市域にありますので摂津市、それから大阪府が北大阪バイオクラスターということで吹田操車場跡地を含めてほかのものをどう考えていくかということも全体の中で考えたいとおっしゃっていますので、大阪府を含めて検討していきたいと考えています。

B 今日配られています参考資料も前回の宿題だったと思いますのであわせて御紹介いただいた方がよろしいのではないですか。

事務局 参考資料ということで最後に説明させていただこうと思っていましたが、前回の御指摘で、もう少し詳細のわかる資料をとのことでしたので今回御用意をさせていただいております。

－参考資料「吹田操車場跡地地区（4街区）[大阪府吹田市]土地譲受事業者募集要領（抜粋）」にて説明。

L 事業者を募集されているところに医療機関は入る予定はあるのでしょうか。先ほどの話にもありましたように、医師会、歯科医師会に入会せずに開業されるとせっかくのいろいろな事業等が無駄になることがあるかもしれませんのでそのあたりも勘案していただければと思います。

事務局 募集要領の医療健康増進機能の評価の視点①(2)に診療所等の地域医療機関又は居宅介護支援事業所等についてということで、医療モールのようなものが入るということは想定がされると思います。ただ、手放しに誰でもいいですよということは行政側としても良くないと十分認識しています。前回募集要領の抜粋でも出させていただきましたが、この開発事業者が決まった後は勝手に開発をするのではなく、例えば、この健康・医療のまちづくり会議とか諸々の会議に出てきてもらって地元行政、関係者等と調整をしてくださいということになっていますので、こういった会議の場などに出てきていただいて御懸念の点などを意見交換ができればいいと思っています。例えば三師会に加盟していただくとか、調和を考えていただくというような意見交換が必要になるかと思っています。

F 1点教えていただきたいのですが、国立循環器病研究センターの構想の中で地域医療関係者、行政、企業と連携した先駆的な循環器病予防モデル事業の実施というものを掲げられていますが、具体的な中身はいつ頃出てくるのか教えていた

だいてよろしいでしょうか。

B        それぞれの各専門の先生方で個別に進めているものもありますが、センター全体で今これが移転を見すえた新しいモデルですというものは今の時点ではありません。次回の会議で御報告しようと思っておりますが、来年度の予算あるいは今年度の補正予算である程度の金額が内示されていますので、そういったものも使って新しいモデル事業といったようなものを出したいと思っております。その中身につきましては、今後地元の自治体、医師会などの関係の先生方とも相談したうえでお出ししていきたいと考えています。

M        我々の施設も循環器病の次の対策は予防だろうと考えて、それに対するツールづくりというものを独自に進めてきているところです。例えば、先ほど富士通のところでも話にありましたが、ウェアラブルな計測機器を使っているいろいろなパラメーターを測るようなツールづくり、最近話題になっておりますかるしおの食事療法をどうするか、運動療法をどうしていくか、今まで吹田コホート研究から出てきた多くのエビデンスに基づく手法等の部分的なものではありますが、それをどういうふうに組み合わせていくかということは今後の課題と思っております。

N        次のセクションの健康・医療のまちづくりのところで申し上げようと思っておりましたが、こういう流れになってきておりますので、ここでお願いというか提案をしておきたいと思えます。まさに循環器病を中心にした生活習慣病全体を予防するという切り口は今までの共通認識でしたが、国立循環器病研究センターはこれまでかるしおレシピに代表されるようないいものをお作りいただいています。栄養、食生活にしても運動にしてもそういったものを視野にいれて行動変容をどうしていくかということについては、たしか以前も申し上げましたが、健康栄養研究所という国の機構があり、そこで包括して行っているのですが、それが今度医薬基盤研究所と一緒にありますので、身近な医薬基盤研究所に健康栄養研究所がくっつくと思っております。先日医薬基盤研究所を訪ねてきましたが、新生医薬基盤研究所が吹田操車場跡地のまちづくりにおいて是非そういった健康栄養研究所のノウハウを提供してほしいと申し上げたところ、是非協力したいとおっしゃっていただきましたので、この会議でもそういうノウハウを今のうちから吸収しておく方が良くと思います。特に先ほどの参考資料で今後求められる施設及びサービスの例を見ていると、まさに健康栄養研究所がしてきたノウハウが評価の視点として活かされるようなものばかりだと思います。こういった予備知識を我々も踏まえたうえで、我々は評価できないでしょうが、事業者意見を出すというような動きを持っていくことも必要かと思っておりますので、そういった新生医薬基盤研究所とのコラボといったものも今のうちから準備をしておいていただければと思います。

事務局 我々も独立行政法人の統合の話は承知しております。医薬基盤研究所にも近いうちに話をお伺いしに行こうかと思っておりますので、ある程度形が見えたところでまた御報告をさせていただければと思います。

C 健康栄養研究所は今、東京の北の方にありますが、そこで研究されている先生の中には関西から行かれている先生も多くいまして、今回医薬基盤研究所と一緒にするという事で国立循環器病研究センター、関西での活動を希望されているというお話も聞いておりますので、もし何かございましたら、私の方でも何か橋渡しをさせていただけるのではないかと思いますのでよろしくお願いいたします。

事務局 それでは、次の健康・医療のまちづくりについて御説明させていただきます。  
－資料5「これまでの議論の整理」にて、2 健康・医療のまちづくりについて説明。

御質問・御意見等がございましたらお願いいたします。

私ども吹田市で考えていることをまず申し上げますと、健康・医療のまちづくりを考えました時に、国立循環器病研究センターの移転が端を発しており、一つは吹田操車場跡地でのまちづくりをどう考えていくかということ、もう一つはそれだけではなく全市的な話としてどう波及させていくかということの2点があるかと思います。前者の吹田操車場跡地の健康・医療のまちづくりを考えた時に国立循環器病研究センター、吹田市民病院がいかに地域医療をやりやすくするかということのお手伝いをさせていただくというのが一つあります。もう一つは病病連携のためのサポートのようなものとか病診連携のお手伝いがあるかと思います。そのほかにそれを核とした全体の連携をどうとっていくか、つまり正雀下水処理場跡地にくる企業との橋渡しをしていくこととか、1 街区で考えている健康増進広場とか2 街区で考えている高齢者向けの医療・介護連携高齢者向け住宅などといったものについて、国立循環器病研究センターや吹田市民病院からどうお知恵をいただくかということがあるかと思います。それは当然摂津市と一緒に協力をしながら進めていくことだと思いますが、もう一つは全市的にどう波及させていくかということについては、例えば、高齢者向けの住宅をしていく中で、医療と介護をどううまくミックスして地域包括ケアを進めていけるか、モデルを市内の他の事業者にフィードバックしていくことができるといことも考えていますし、また先ほど御議論いただきましたようにここだけが良ければいいというわけではなく、行政だけが良ければいいというわけでもなく、市民や産業界、医療関係者にも声をあげていただいて、いかに自主的な健康や医療に対する気運を盛り上げていくかということについても全市的にどう対応できるかということを考えていく必要があるかと思います。さらには健康問題を考えるうえでは、特定健診の受診率を上げること、吹田市でいえば特定保健指導があまり進んでいないということがありますのでそこをどうクリアしていくかということが課題になるかと思います。あるいは、第1回から御指摘をいただいておりますが、吹田

市、摂津市の健康指標から見る特徴の分析なども当然進めていく必要があるかと思っておりますし、それは国保データだけから読み解けるものではないかと思っておりますが、こういったものが考えられるかもまた国立循環器病研究センターと相談させていただくことが必要になるかと思っております。資料の説明をあまりできませんでしたので私どもの考え方をまず述べさせていただきました。

資料やそのほかでもかまいませんが、何かございませんでしょうか。

- B 第2回の基本的な考え方の中で私どものフィロソフィーを御報告させていただきましたが、JR東海道線上の岸辺駅の前に国立循環器病研究センターをもってくるといふことのメリットを最大限に活かす必要があると考えています。二つあり、一つは国内のみならず海外からみた時に東京オリンピックがあろうがなかろうが関西は今後ずっと魅力的な場所であり続けると思っています。京都、大阪、神戸を抱えているという中で魅力的な土地であり続けるといふことであれば、せっかく関西に来られた外国の方々を健康・医療のまちづくりに関しておもしろいところがありそうだとすることで、関西国際空港からすぐ京都や神戸に流れていくのではなく、吹田市、摂津市に立ち止まって少し寄ってみようというように、国内外から人が集まるような魅力的な観光資源をもったまちにするにはどうしたらいいのか、すごくいいアイデアがあるわけではありませんので、むしろせっかくの場ですので皆様のアイデアや御提案も出していただければと考えております。もちろん医療が中心におかれて当然ですが、この地域は古墳時代も含めていろいろな遺跡が出ているところですから、そういった遺跡の散策を兼ねたウォーキングコースを健康・医療につなげるとか、そういう魅力的な人を集めるツールというものもアイデアとしていただければというのが一つです。もう一つがJR東海道線につくったメリットというものは、残念ながら新幹線からは若干見づらいのですが、少なくとも東海道線沿線を走る電車からは直接建物が見えます。私どもが予定しております建物は長さが270mとかなり細長く、10階建ての非常に巨大な建物となり、さらに吹田市民病院も横にあり、その間には駅前複合施設ができ、さらに7街区には高級住宅地が建設されるということで、これはある意味統一的な色、材質、景観のどれかわかりませんが整合性があるものにする、非常に魅力的なランドスケープになるとある高名な建築家もいわれていますので、景観という意味でもここを活かさない手はないのではないかと思います。医療とは離れますがそういったことも御出席の皆様の意見、アイデアなどを今日でなくても結構ですので今後伺えればと思います。

- 事務局 1 点目の観光資源という言葉は国立循環器病研究センターの資料の中でも書いていただいておりますし、4街区の事業者も次回には決まっているかと思っておりますのでそういったことが考えられるかということも意見を聞ければと思います。我々も何ができるかということを考えていきたいと思っておりますし、是非皆様からお知恵をいただければと思います。

K 今までの議論を見まわしてみても、喫煙対策については何も書かれていません。循環器病予防においてはこれが一番大事なことだと思います。いまさらあたりまえかもしれませんが、4街区の複合施設でタバコを吸われては何もならない、そういうことがコンペの要件には一つも入っていないことが少し気になりました。

事務局 御紹介ができなくて申し訳ありません。資料の9ページの⑥について、1回目の議論で、煙の無いまちづくりを進めてはどうかという御提案をいただいていたところです。吹田市では、路上喫煙の禁止エリアがありますが、環境美化の観点から今あるものです。環境美化はさることながらこういったシンボリックな土地であることからプラス健康の観点からこのエリアに導入が図れないかということもありますし、一般的な喫煙対策、禁煙に向けた取組も市として行っておりますのでそういったものをどう発展させるかということも今後の課題かと思っています。

D 二つあります。一つは先ほどいわれていましたように複合商業施設は、17ページに書かれているようなことが全部できれば非常に素晴らしいものになると思いますが、どこで誰がするのかということになってくると商業施設にソフトをいれていかないといけないと思います。コンペで通られた業者には必ずこの会議等に来ていただき、それまでに我々としてはこういったようなことは極力避けてほしい、こういったようなことはいれるようにしてもらいたいというような提案事項を検討してしっかりといいものをつくっていかればと思います。例えば、薬剤師会で考えておりますのは、大手の薬局がくるかもしれませんが、今の国立循環器病研究センターの近くに現在は吹田市が持たれている官営の薬局もありますので、率直に言いまして官営薬局は賛否があり、民営の圧迫になると、普通の調剤薬局と同じことをしているのであれば民間の薬局というようなお話もありましたので、例えば、摂津市、吹田市で協力をして官営薬局でも今までにないような取組をしていくとか、コンビニとか調剤薬局とカフェとか健康・介護関係の雑貨とか全部融合したような形で24時間365日フル稼働してデリバリーもできるようなものとか、そういうものをできたらいいがまだまだ資本的なものでできないとか、看護師や理学療法士、歯科技工士などの専門学校、サテライトを呼んでここで研修をして、情報の集積と発信ができるようなコアセンターとして近隣の開業医、介護施設、歯科に関しても紹介をしていくようなコントロールセンターをつくっていくとか、ホテルはビジネスホテルではなく患者と御家族が泊まれるようなもので、車イスやストレッチャーで搬入ができるようにするなどをしてはどうかと思います。各論を詰めていきますと地元の食や産業力も検討する中にいれて、地場で優れた企業、会社と我々三師会ともしっかりと連携をとっていけるようなものをここに設置していく、紹介していくというような具体論の詰めもしていかないといけないかと思っています。

事務局 おっしゃるように、次回来て説明してもらうこともさることながら、私どもとして何を言うべきかということもあろうかと思えます。行政だけではなく医療関係者の皆様もですが、意見の申し述べ方についてもまた考えさせていただければと思います。

F 冒頭に3点御指摘をいただきまして、リーダーとコンセプト、地域連携の具体性というお話があったと思います。私どもがこの会議をしていて一つの到達点を出すとなれば、吹田市と摂津市で何か一緒にできることはないかというふうに考えており、いきなり施策を一緒にするのは大変だと思いますので、できましたら吹田と何か一緒に事業をできればと考えています。この件は何回か吹田市と話をしていますが、なかなか具体的なアイデアがありませんので、次回以降で結構です何かいいアイデアがありましたら三師会の皆様から御意見をいただければと思っています。そこに国立循環器病研究センターに入っていたり、クラスターに進出する企業が決まりその企業に入っていたりすれば、吹田操車場跡地の具体的な連携の姿というものを全国に発信できるのではないかと考えていますので、御意見をいただければと思います。

事務局 よろしいでしょうか。本日は以上で終了とさせていただきます。次回につきましては、本日いただいた御意見を踏まえて課題の整理をブラッシュアップさせていただいて同じようにさせていただこうと思えます。そして、4街区の事業者が決まっているかと思えますので御出席いただいて説明をしていただきたいと思いますので、お待ちしております。

ありがとうございました。